

# Mランドニュース Vol.225

## 丹波ささ山校 令和8年1月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県丹波篠山市池上569

TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 近藤 正幸

<https://www.sasayama-ds.com/>

E-mail info@sasayama-ds.com

### 今月の言葉

「人は年を重ねるのではない。  
経験を重ねるのだ。」

サミュエル・ウルマン

#### 新年のご挨拶

代表取締役

小河 吉彦



幸多き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

二〇二五年は、私たちに  
とって改めて「地域と中小企  
業の未来」を考える一年とな  
りました。名目賃金は上昇  
しているものの、物価高の影  
響により実質賃金が追いつ  
かず、日々の暮らしや消費  
において、価値をより厳し  
く見極める時代となっていま  
す。

一方で、すべての地方企  
業が厳しい状況に置かれてい  
るかという点、決してそうで  
はありません。お客様に必  
要とされ、選ばれている企業  
は、着実に成果を伸ばしてい  
ます。今、地域の中でも「選  
ばれるかどうか」という二極  
化が、静かに、しかし確実に  
進んでいると感じています。  
また、米の価格高騰に代  
表される急激なコスト上昇

に加え、野生動物が身近な  
存在になるなど、これまで想  
定していなかった出来事が  
次々と起こっています。私た  
ちは今、「昨年通り」が通用  
しない、不確実性の高い時代  
を生きています。

こうした中で、これからの  
地域社会を考える際に、三  
つの視点が重要になります。

一つ目は、何もなければ  
多くの地域は衰退してい  
くという現実です。だからこ  
そ、自ら未来を創る姿勢が  
求められます。

二つ目は、人口が減少す  
る一方で、人と人が行き交  
う「交流」をつなぐことで、新  
たな価値や場が生まれると  
いう可能性です。

三つ目は、人生百年時代  
において、地域に根ざして暮  
らす人々との関わりが、こ  
れまで以上に大切になると  
いう点です。

その想いをもとに、地域と共  
に歩む新たな事業や挑戦を  
進めてまいります。

不確実な時代だからこそ、  
まず「こんな未来を創りたい」  
という理想を描き、そこから  
「今、何をすべきか」を考え  
る。二〇二六年も、私たち  
は丹波篠山の未来に「点」を  
打ち続けていきます。

今年の合言葉は、「美しく  
なりたく候」がありますと  
言っていただけの仕事をし  
よう」です。今だからこそ、  
この言葉の本質を学び直し、  
一人ひとりが自分のものに  
しなければならぬと強く  
思います。ゲストのために、  
地域のために、とことんこ  
だわってまいります。

最後になりましたが、社  
外の皆様におかれましては、  
弊社社員一同、本年も変わ  
らぬご指導・ご鞭撻を賜りま  
すよう、心よりお願い申し  
上げます。

ありがとうございます。

管理者

永見 倫幸

シルバードライバースクール

十一月十四日、「シルバ  
ードライバースクール」を開  
催いたしました。この講習は、



教室での講義

丹波篠山市役所、丹波篠山  
市シルバー人材センターを主  
体として、篠山警察、JAF  
(日本自動車連盟)、そして  
Mランドが合同で実施した  
ものです。午前・午後の二部  
制で約八十名の方にご参加  
いただき、大変充実した一  
日となりました。

講習では、まず篠山警察  
署交通課長より、地域の交  
通事故情勢や安全運転のポ  
イントについての講話をいた  
だきました。参加者の皆さ  
まは熱心に耳を傾け、事故  
防止への意識を改めて深め  
ておられました。続いてJAF  
様による、「不測の事故をな  
くすためには」というお題で、  
普段の運転では気づきにくい  
車両周辺の死角について、映  
像や具体的な事例と共にわ  
かりやすい説明が行われま  
した。



屋外での死角体験

屋外では、JAFスタッフ  
による死角体験コーナーを  
設置し、実車を使って運  
転席からの見え方を体験して  
いただきました。実際に座っ  
てみると、「こんなに見えない  
場所があるとは思わなかった」  
と驚く声が多く聞かれました。  
さらに、Mランドインス  
トラクターによる同乗運  
転体験も実施し、運転時のク  
セや注意点を個別にアドバ  
イスさせていただきました。

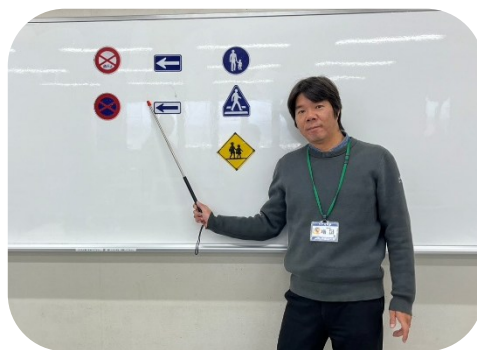
今回のシルバードライバ  
ースクールは、多くの方に安  
全運転について見直してい  
ただく貴重な機会となりまし  
た。ご参加いただいた皆さま、  
そしてご協力いただいた関係  
機関の皆さまに心より感謝  
申し上げます。このような  
地域のつながりを大切に、こ  
れからも交通安全の輪を広  
げていければと思います。



## インストラクター紹介 共習・共育部

増田 賢

皆様、初めまして。六月一日からお世話になっております、増田賢と申します。



ここがポイント!!

前職も、他校ではありま

すが教習業務に従事しておりました。教習や検定だけでなく、事務、受付、公安業務、さらには合宿エージェン

ト相手に入卒日や送客についての調整といった営業関係にも携わっていた日々もありました。ここMランドにて、新たに教習指導員として再出発できる機会を与えてくださったことに、深く感謝申し上げます。

した雰囲気心地よさを感じながら、日々の業務に一生懸命取り組んでいる次第です。

入社後、一番感動したところといえば、『挨拶』と『掃除』です。私自身の感覚ではありますが、ビジネス優先の教習所が増えているように感じています。しかし、挨拶や掃除などは、人が人らしく生きていくために必要なもの。ただ運転操作や知識を教えるだけでなく、ゲスト自身の人間性までも大切にするMランドの社風に心から感動したことを今でもはつきり覚えています。

この素晴らしい環境で、私自身も前向きに、力を尽くしてまいりますので、これからもご指導のほどよろしくお願いいたします。

### 季節のバトン



カウンターのツリー

十二月の間、受付カウンターやカフェミロで皆さまの目を楽しませてくれたクリスマスツリー。色とりどりの

オーナメントや輝くライトに、また来年までのお別れを告げ、一つひとつ丁寧に片付けました。

「今年もみんなを笑顔にしてくれてありがとうございしました」と、心の中でつぶやきながら感謝を込めて箱に収めていきます。子供の頃から、この華やかなツリーを片付ける瞬間というのは、なんとも言えない寂しさとも名残惜しい気持ちになりますね。ですが、名残惜しさに浸る間もなく、次は「お正月飾り」へのバトンタッチです。玄関にしめ飾りをしつらえると、ロビーの空気は凛としたものへと変わり、一年の締めくくりと新しい年の訪れを肌で感じます。



玄関のお正月飾り

きらびやかさから、和の落ち着きへ。飾りが変わることで、私たちの心も不思議

とスツと引き締まるような気がいたします。

形を変えながら繋がっていく「季節のバトン」を大切に、新しい一年も、皆さまを温かな笑顔でお迎えできるよう準備を整えてまいります。

### ありがとうございます



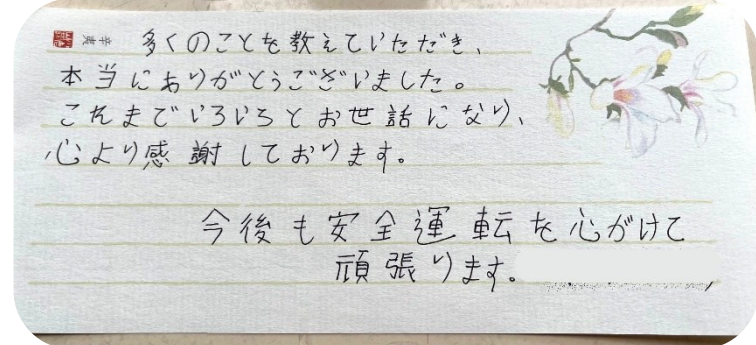
贈り物

謝の言葉が綴られていました。母国語ではない日本語で、一文字ずつ想いを込めて、ゆつくりとペンを走らせてくださったその筆跡を眺めていると、私たちの胸も熱くなります。

「短い文章の中に、どれほどの感謝が詰まっているか」。手書きの文字からは、無事に合格できた喜びが真っ直ぐに伝わってきました。たとえ言葉が完璧でなくても、伝えたいという「心」があれば、相手の心にこれほどまでに深く届くのだということを、改めて教えていただいた気がいたします。

卒業された、ある外国人ゲストの方から、思いがけない素敵な贈り物をいただきました。それはお菓子と一緒に添えられた、一通の手紙でした。

慣れない異国の地で、言葉の壁を越えながら複雑な交通ルールや運転技術を習得するのは、並大抵の努力ではなかったはず。そんなことを思い出しながら、一生懸命に書いてくださったのでしよう。そこには、丁寧に練習されたことが伝わってくる、ひらがなと漢字を交えた感



思いが伝わってくる文字です

私たちは、ただ運転の知識や技術を教えるだけではありません。こうした心の交流こそが、Mランドが大切にしていることです。このお手紙は、私たちにとっても何よりの宝物であり、これからの業務に励むための大きな活力となりました。素晴らしいご縁に感謝し、新しい免許とともに歩むこれからの安全運転を、スタッフ一同心より応援しています。

### 編集後記

実は、「季節のバトン」の記事に写っている受付のツリーは私が子供の頃に買ってもらった大切なもので、今こうして皆様の笑顔を彩っていることに不思議な縁と感謝を感じます。

ツリーから正月飾りへのバトンタッチのように、私たちも日々の気づきや感謝の気持ちを大切に繋ぎながら、新しい年を迎えました。冒頭の代表小河の挨拶にもあった「理想の未来」を描き、当たり前の日常に心から「ありがとう」を。

二〇二六年も、皆様と共に歩む温かな一年となりますように。

近藤 正幸